2月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／2月12日㈭　15時から　◆場所／第2委員会室（自由に傍聴できます）
◆問い合わせ／教育振興課 総務係　☎0952−75−8022

教育委員会だより

「多久から発信！SDGs㊶」

〝食品ロスをなくすために〟

六年一組では、給食の食品ロスを防ぐために、一人ひとりが食べられるごはんの量を確認してから食べています。もしも、ごはんやおかずが余ってしまうと、食品ロスにつながり、環境に悪いと思うからです。だから私たちは、自分たちが食べきれる量を把握しています。

もしも、休みの人が多くてごはんなどが余ってしまいそうな時は、好き嫌いをしないで食べたり、残菜が出ないように一人ひとりにつぎ分けたりするようにしています。また、食事の時間を少しでも長くとれるように、学級全員で一致団結し、短時間で給食の準備をしていることも食品ロスをなくすための取り組みの一つです。

このように、みんなで協力することで、食品ロスをなくすことができ、私たちのために給食を作ってくれている給食センターの人たちを悲しませることもないと思います。命をいただいていることに感謝しながら、これからもおいしく給食を食べていきたいです。

東原庠舎東部校
6年1組一同

連載

多久市の指定文化財（11）

― 諸田賢順の墓 ―［多久市重要文化財］

北多久久町大字小侍三九四一番地

現代箏曲（琴）の源流といわれる筑紫流箏曲は諸田賢順（1547～1636）によって創始されました。賢順は筑紫の宮部郷に生まれ、7歳の時父が戦死したため久留米の善導寺に入り、12～13歳で浄土仏事の琴を行い、天文20年（1551）には英彦山に移り禁中の楽府や琴譜を修めました。さらに明から渡来した鄭家定に学び、箏曲に優れたため豊後の大名大友宗麟に召し抱えられましたが、意にそぐわず肥前川副の正定寺に逃れました。

その後、元亀2年（1571）に多久領祖龍造寺長信に招かれて多久の東の原（多久町）に移り住み、以降は多久家初代多久安順（長信の子）の夫人徳寿院に筑紫箏を教授するなど多久で暮らしました。没年は系図では元和9年（1623）、またはその後の研究では寛永13年（1636）とされています。

墓は小侍の墓地にある有耳五輪塔のうちの一基です。賢順の没年と同時期の江戸時代初期のものとみられ平成元年に指定されました。市郷土資料館には、賢順自作と伝える箏がのこされています。

（教育振興課）

▶諸田賢順の墓（中央）

▶伝賢順作箏（手前・資料館蔵）

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆平和詠みし 師の短歌はるか 三十年
たたかい絶ゆる ことなき地球
尾形 節子

◆短歌ありて 日々の楽しく 明けくれる
有難きこと 感謝なしつつ
川浪 信子

◆たくさんの 力を借りて 生きてきた
恩返しする 時はくるのか
野崎 隆幸

◆友の家 顔が見たくて たまに寄る
笑顔でくれた シクラメン鉢
梶原恵美子

◆ふるさとの 幼なじみは 皆逝きて
空虚な胸に 面影うずむ
浦野 嘉恵

俳句《大石ひろ女選》

◆枯草に 腰をおろせば 遠き日々
大谷 和

◆寒風や 時折音す 竹林
武富 律子

◆双六の 人生ゲーム 勝負する
本村 則子

◆晩年を ゆるやかに生き 年暮るる
富樫 明美

◆柚子の香に 骨折の手を 浸しけり
大石ひろ女

川柳《多久川柳会 互選》

◆目に見えぬ 線でつながる 君と僕
松下 修

◆物価高 孫の年玉 値上げする
高塚ちかこ

◆冬日さす 風花に酔う 二日の湯
小副川ヨシエ

◆願いごと 欲ばりません 一つだけ
古賀 弘子

◆お正月 爺じも欲しい お年玉
田中 正春